

ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0019 北海道千歳市流通3丁目4-1

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2026年2月18日発行 【再刊第44号】

今号の話題

- 観光関係者との情報交換会開催
親睦深め、情報も共有
- ホルメンコーレンマーチ開催
雪上で4種目に汗流す
- ろうさん祭りで郷土史を学ぶ
雪灯籠が境内に風情

「千歳・支笏湖氷濤まつり」氷の美術館 支笏湖ブルーの世界」が1月31日、みなもあパーク駐車場を会場に開幕しました。約30基の氷像が会場に登場し、国内屈指の水質を誇る湖水が生んだ美しい青「支笏湖ブルー」の輝きで観衆



ライトアップされた会場が観光客を楽しませます

支笏湖ブルーが行楽客を魅了

自然と人が織りなす造形美

千歳・支笏湖氷濤まつり「氷の美術館

2月23日まで開催

を魅了。夜間もカラフルにライトアップされた会場内が幻想的な雰囲気醸し出し、訪れた人は自然と製作スタッフの技術が織りなした造形美を楽しんでいます。

観光連盟が事務局を支援する国立公園支笏湖運営協議会の主催。会期は2月23日まで。まつりは冬期間の観光の目玉となるイベントをつくらうと、1979年1月に



「氷の細道」で青の魅力を堪能

始まりました。

会場に入ると、高さ13メートルのシンボル「ブルータワー」が迎えます。そびえ立つ姿は圧巻です。

高さ6メートルの展望台は会場を一望でき、支笏湖や周辺の山々を眺めることが出来るスポット。全長約40メートル、高さ9メートルの「アイスウォール」は、支笏湖地域の自然のダイナミックさを表現したような壮大な氷壁を通して支笏湖ブルーの魅力を体感できる氷像です。第1回の開催から造られている「苔の洞門」は松の枝を骨組みに取り付けて散水して、美しいコケの緑を演出しています。



ビッグマウンテンは迫力満点

今年は入り口にシラカバの木を立て、枝に人気のシマエナガのぬいぐるみを何匹もとまらせて、見る人を喜ばせようという工夫も光ります。

今年も新しい氷像が登場しました。「氷の細道」は両側に高さ5メートルの氷の壁を設け、幅1メートルの通路を進みます。両側から迫るような氷の壁は、青さを間近に感じられ、昼間に差し込む太陽光が美しさをさらに引き立てます。

「アイスフォレスト」では木々が林立する中、焚火でマシュマロを焼いて味わえます。キャンプ



緑の色鮮やかな苔の洞門は、ま
つりの定番です



氷像から出る噴水も注目を集めました

ファイアーを楽しむような感覚で、ひと時を過ごせます。「アイスキッチン」では来場者にコーヒーなど温かい飲み物やかりんとう饅頭などの食品を提供し、暖をとれるなど、いずれも人気のスポットです。



焚き火で温まり、マシュマロを焼いてひと休み

ポットです。

会場では国内外からの観光客が多数来場しています。昼間の支笏湖ブルー、夜のライトアップともに、会場全体がいわば「映える」スポット。スマートフォンで写真を撮影してインスタグラムに投稿する人もいて、多くの人に楽しまれています。



ロゴも撮影スポットになっています

入場料は中学生以上1000円、小学生以下無料です。開催時間は午前10時から午後8時。ライトアップは午後4時半からです。

千歳の活性化へ意見かわす 観光関係者と情報交換会



関係者が市内と近郊の観光に関して意見交換しました

観光連盟は1月下旬、市内と近郊の観光関係者との情報交換会を市内ホテルで開催しました。宿泊、飲食、交通、行政等、関係者が出席。市内の観光振興、地域活性化に関して意見を交わし、関係者同士のさらなる結びつきを強める

ました。

会合で観光連盟は、誘客促進の取り組み、本州方面での北海道物産展への参加、千歳市内の観光をめぐる動向などを報告しました。また千歳市観光スポーツ部の担当者からも、市内上期入込状況が説明されるなど、最新の情勢について参加者が理解を深めました。

初めて参加した会員もいて、懇親会では名刺交換をしながら交流し、お互いの業界の状況について報告。参加者からは「このような場は大変有意義であり、今後も継続的に実施してほしい」という声が多く聞かれました。

国内外の観光客の動向を把握し、情報を関係者間で共有することでさらなる誘客のヒントを得ることができそうです。関係者との情報交換、観光客の動向など、連盟では今後も継続的に情報交換会を開催して、今後の観光振興に反映させていきます。

ちとせホルタンコーレン

マーチ開催

白銀コースを疾走

クワカシで青葉公園を走行

雪合戦、綱引きは熱闘展開

「千歳市空港開港100年記念・第50回ちとせホルメンコーレンマーチ（冬季スポーツフェスティバル）」が2月11日、青葉公園を主会場に開催されました。千歳クロスカントリースキー、歩くスキーの、千歳雪合戦、小学生雪上



雪のちらつく中、スタートを切るクロスカントリースキー出場者



雪合戦は公式ルールに基づき、本格的に行なわれました

5色綱引きの4種目を実施。出場者が冬の競技を満喫しました。千歳市スポーツ協会主催、同実行委、千歳スキー連盟主管。観光連盟が後援しました。千歳クロスカントリースキーでは、3・5キロのほか、今回から7キロ種目が復活しました。クロスカントリースキーは、駐日ノルウェー王国大使、クリスティン・イグルム氏のスタート合図とともに出場者が白銀のコースへと滑走し、凜と冷え込んだ朝の

林間コースで熱いレースを繰り広げました。

計測・表彰のない歩くスキーは青葉公園内を家族や友人とともに、自然を満喫。スポーツ少年団の対抗による小学生雪上5色綱引き（スポーツ少年団対抗戦）は、子どもたちが元気いっぱい綱を引いて保護者からの声援を浴びていました。

雪合戦は一般部、レディースの部、MIXの部の3部門で実施。出場チームは、雪玉の数や敵陣に入れる人数など、国際ルールに基づいた試合展開は、障壁の後ろに隠れながら相手チームを雪玉で攻撃。壁に隠れた相手チームメンバーに雪玉を当てるため、放り投げるようにして雪玉を落とすといった技も。味方が敵陣に駆け込み、ひるんだすきを見て相手チームのフラッグを奪うといった熱戦を繰り広げました。

千歳神社の歴史学ぶ

雪灯籠で情緒豊かに

第2回ろうさん祭り

千歳の歴史や文化、神社に親しんでもらう「第2回ろうさん祭り」が2月1日、千歳神社で開かれました。地域活性化に取り組み千歳トラベル実行委員会の主催。参道には火をともしたらうそくが並んで、神社の雰囲気と相まって風情を醸し出していました。

実行委は千歳青年会議所メンバ



雪灯籠が参道や階段を照らしました



バーやOBの有志で組織。「ろうさん」はアイヌ語で「道が川や海にでていくところ」と解釈され、神社境内に石碑があります。

会場では神職が千歳神社の成り立ちや地域の歴史を案内する時間が設けられ、参加者は市民の心よりどころの一つである神社の由来について理解を深めました。夜には社をライトアップ。ろうそくに火を灯した雪灯籠とともに夜の神社を情感豊かに照らしました。祭りに合わせた特別御朱印が授けられたほか、節分に合わせた豆まきも開催。社務所前にはキッチンカーが並ぶなど、冬の神社を楽しむイベントとなりました。

イベント情報

▼「羽根で学ぶ、鳥のこと。」

with Zoo & Aquarium」(2026年3月5日まで、サケのふるさと千歳水族館) 猛禽類医学研究所と、道内9つの動物園と水族館がコラボした鳥類の羽根の巡回展示です。同研究所研究員が美しい野鳥の羽根を集めて翼を広げたような標本を制作。猛禽類とサケマスの関係、千歳川周辺に生息する水鳥や河畔林でみられる鳥の羽を中心に展示します。

▼ノーザンホースパークマラソン2026(5月17日、苫小牧市美沢・ノーザンホースパーク) ハーフ、ハーフ+トレイルラン、トレイルラン、ペアランの4種目を開催。エントリー受付は3月15日まで。競走馬育成施設内を走ることができる唯一のマラソン大会で、直営レストランでつくる北の味覚も味わえるイベントです。

編集後記

大雪に泣かされた人も多い今年の冬ですが、2月半ばに差し掛かると気温がプラスになる日も増え、雪解けの水が流れる音、真冬日には聞かれなかった小鳥のさえずりが聞かれるようになりました。

2024年の氷濤まつりは暖気のため期間途中で中止となりましたが、今回は1月上旬の寒気を生かしてがっしりと丈夫な氷ができそうです。安全に気を配り、期間最終日まできれいな氷を見せたいと願う、製作スタッフたちの心意気と技術の粋が結実したまつりとなりました。

開催期間はあとわずか。2月の3連休、北海道を代表する冬の祭の一つ、氷濤まつりにどうぞお越しください。(ひ)